



# 戸田市の教育改革の取組 (平成31年度版)

戸田市が目指す  
「世界で活躍できる人間」

世界に関心を持ち、地球規模で未来を考えることができる子  
自分の力を他者や社会のために使いたいという意欲を持つ子  
多様性を理解し、他者と協働して問題の解決に取り組める子



SEEP S:STEAM (Science, Technology, Engineering, Art and Math) E:EBPM (Evidence-based Policy Making) E:EdTech (Education × Technology) P:PBL (Project-based Learning)

## 1 EBPMの推進

優れた指導法や教育施策を質的・量的の両方の観点で分析し、授業改善や政策立案に生かす。

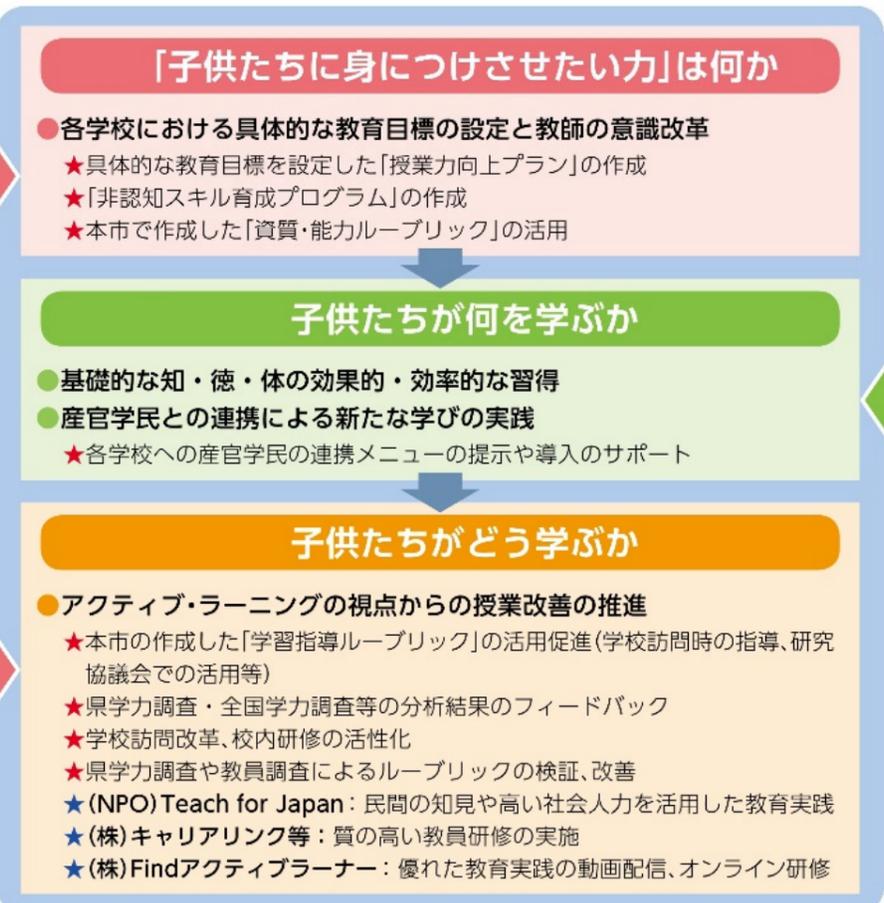
「教育政策シンクタンク」(仮称)設置  
エビデンスベースでの政策づくりを自律的に推進するための組織の立ち上げ  
★多様なスキルを持った教育行政プロの採用

- 外部との共同研究
- ★慶應義塾大学等：埼玉県学力調査の分析による非認知能力と学力の関係など
  - ★筑波大学：特別支援教育に関する研究
  - ★国立情報学研究所、(社)教育のための科学研究所：リーディングスキルの視点からの授業改善
  - ★埼玉県教育委員会：県学力調査と教員質問紙調査を活用した優れた指導法の分析
  - ★(株)ベネッセ：「ミライシード」を活用したR-PDCA支援モデル
  - ★(株)LITALICO：
    - ①ユニバーサルデザインに基づく学級経営と授業実践
    - ②ペアレントトレーニングの導入
    - ③個別の指導計画策定システムの導入
  - ★IGS (株)：GROWによる教育効果の可視化の研究

## 2 「授業力」の向上

これからの時代を生き抜くために必要な力を子供たちに身につけさせるため、授業改善をはじめ、すべての教育改革の取組を教室での子供の学びに結びつける。

アクティブ・ラーニング推進のための「戸田型授業改善モデル」  
本市独自のルーブリックを核として多角的な授業改革の取組を実施する。



## 3 新たな学びの推進

AI(人工知能)では代替できない力やAIを使いこなす力を身につけるため、「21世紀型スキル」「汎用的スキル」「非認知スキル」を育成する。

### PEERカリキュラム

**P：プログラミング教育**

- ★生活科、総合的な学習の時間で一定時数を確保
- ★(株)ソニー・グローバル・エデュケーション：教材提供
- ★(株)ベネッセ：教材提供、教員研修
- ★(株)アーテック：教材貸与、教材の使い方講座
- ★インテル(株)：教員研修
- ★(社)CEEジャパン：教材「Bee-Bot」の提供

**E：英語教育**(中3で英検3級取得率70%以上が目標)

- ★小学校低学年からの実施、モジュール
- ★(株)ソフトバンク コマース&サービス：Musio貸与
- ★英検の検定料助成(小6、中3)
- ★サイエイ・インターナショナル：英検対策講座
- ★教師の英検取得率に関する調査
- ★香港日本人学校：交流事業、イメージ教育

**E：経済教育**(社会の動きや経済の動きについて身近な題材を通して学び、より良い生き方を考える授業)

- ★生活科、総合的な学習の時間で一定時数を確保
- ★(社)CEEジャパン：経済教育の授業の実践、市民大学での経済教育マイスター育成

**R：リーディングスキル**(リーディングスキルの実態把握とその視点からの日々の授業改善)

- ★リーディングスキルの考え方や授業改善事例等をまとめたリーフレットの作成
- ★国立情報学研究所、(社)教育のための科学研究所：リーディングスキルテストの実施、結果の分析と活用

### 戸田型PBL(プロジェクト型学習)

- ★戸田型PBLの手引きの作成
- ★(財)日立財団：企業講師によるプロジェクト型探求学習プログラム
- ★インテル(株)、(株)リバネス：企業講師のデモを取り入れたプレゼンテーション大会の実施
- ★劇団四季：美しい日本語の話し方教室

### 豊かな心の育成

- ★(NPO) Sesame Workshop：セサミストリートカリキュラムの開発
- ★LINE(株)：情報モラル教育
- ★「考え、議論する道徳」の推進、デジタル教科書の活用

### 体力向上

- ★プロトレーナーによる小学校低学年への体力向上プログラムの実施
- ★プロトレーナーによる部活動サポート
- ★青山学院大学、日本体育大学：体育の授業での大学生のサポート
- ★西武ライオンズ、(NPO)戸田スポーツクラブ：体育の授業等への講師派遣

## 4 EdTechの推進

教育とテクノロジーの融合による新たな学びの推進

- (主にICT環境の整備面)
- ★(株)LoiLo：「ロイロノート」の思考ツールを活用したアクティブ・ラーニングの推進
  - ★Google：タブレット型PC「クロムブック」の3000台導入(小：2000台、中：1000台)
  - ★(株)ベネッセ、(株)富士電機ITソリューション：ICT支援員の各学校への定期派遣
- ※その他、「3」の新たな学びをはじめ各取組において推進

## 5 多様なニーズへの対応

一人ひとりのニーズに応じた支援の充実

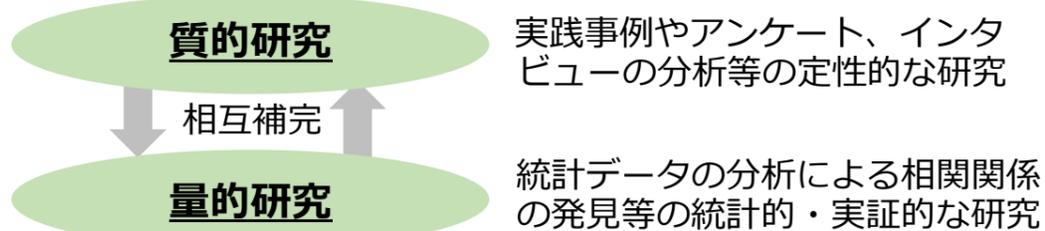
- 〈教育相談体制の充実〉
- ★東京メンタルヘルス(株)：全小中学校にスクールカウンセラーを配置
  - ★東京メンタルヘルス(株)：教育センターに教育心理専門員、スクールソーシャルワーカーを配置
- 〈特別支援教育〉
- ★専門アドバイザーによる特別支援担当教員の指導
  - ★(株)LITALICO：学校への訪問支援、共同研究
  - ★獨協医科大学：発達障害専門医による医療相談
  - ★筑波大学：特別支援教育に関する研究
- 〈日本語指導〉
- ★日本語指導担当教員、日本語指導員の配置
- 〈家庭学習支援〉
- ★放課後補習授業
- 〈不登校支援〉
- ★(株)学研教育みらい：教育支援センター「すてっぴ」の体制強化
  - ★ひきこもりの児童・生徒へのアウトリーチ型支援
  - ★筑波大学等：ピアサポーター制度の活用
  - ★(財)こども教育支援財団：不登校対応相談員への研修
- 〈いじめ対策〉
- ★いじめ防止基本方針、「いじめ根絶ピースプロジェクト」
  - ★電話相談、SNS相談の一部導入

# 戸田市におけるEBPM (Evidence-based Policy Making) の推進

## 戸田市におけるEBPMの考え方

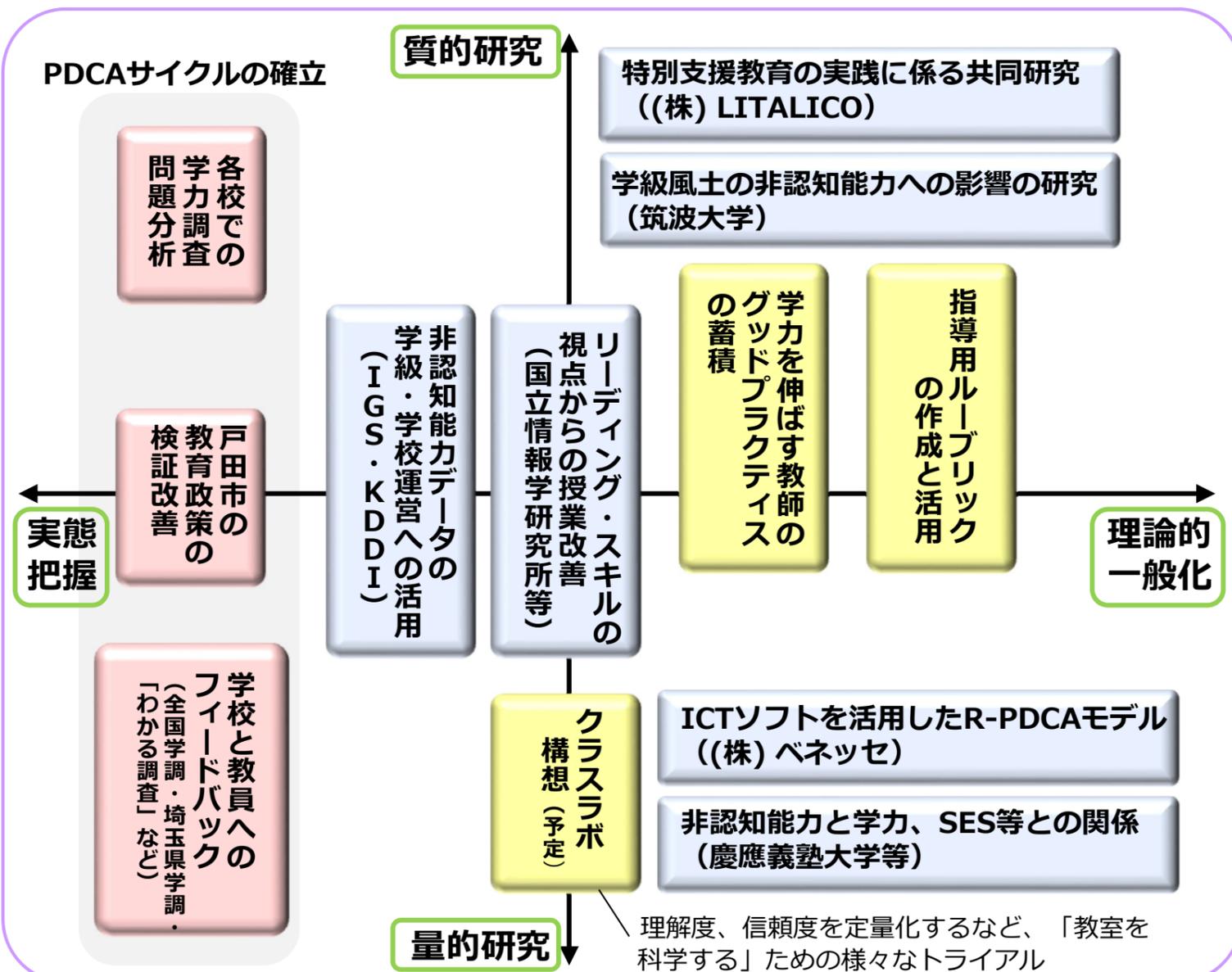
**目的**…「経験と勘と気合い」(3K)による教育実践や施策立案から脱却し、エビデンスに基づく効果的・効率的な教育改革を推進すること

**全体方針**  
…量的研究と質的研究の双方を重視し、目的に合わせ相互補完的に活用する



※「量的研究」と「質的研究」は戸田市における造語で、実証研究と非実証研究にほぼ該当するイメージである。

## 戸田市のEBPM取組マップ



※横軸に研究の目的に関するアプローチ（実態把握と理論的一般化）、縦軸に手法に関するアプローチ（質的研究と量的研究）をとり、現行の取組を配置

## 3つの目的別アプローチ

- (1) 実態把握**：調査結果等のデータを活用することで課題や実態を把握・分析し、PDCAサイクルにつなげる（→①）
- (2) 理論的一般化**：実際の教育実践の事例を研究することで、優れた指導法等に関する知見の積み上げ（→②）や教育改革への新たな視点の発見（→③）につなげる

### ① PDCAサイクルの確立

教育委員会、学校、教師の3者それぞれについて、各種調査等に基づくフィードバックを行い、取組の成果や現状の立ち位置を把握することによって、課題発見と取組の改善につなげるPCDAサイクルを構築する。

教育委員会レベル	各施策について成果指標を定め、市全体に関するデータをもとに、教育施策の改善に役立てる。
学校レベル	各種調査の学校ごとのデータを学校にフィードバックし、学級経営や学校運営、学力向上策に役立てる。
教師レベル	埼玉県学力調査等によるクラス全体の伸びを教師にフィードバックし、日々の授業改善に役立てる。

### ② 授業改善に係る知見の一般化・規準化

授業改善等のための重要なポイントを一般化・規準化する。（言い換えれば、ベテラン教師の経験や優れた勘、匠の技（指導技術）などを可視化・言語化・定理化する。）これによる規準を教員の日常的な授業改善の参考にしたり、授業の自己・他者評価のツールとして活用したりすることで、知見を見える化し、学校や世代を超えて積み上げる。

- （取組例）
- 「指導用ルーブリック」…アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善のため、6つの授業に対する延べ100人以上による評価表をベースに重点事項をまとめた指導用ルーブリックを本市独自に作成。これを研究授業や校内研修において活用。
  - グッドプラクティスの共有…県の学力調査のデータから、特に学力を伸ばしている教師を複数選出し、授業での心がけ等について聞き取り、ポイントを整理・共有。

### ③ 教育改革の新たな視点の発見

非認知能力の学力への影響、アクティブ・ラーニングの有用性、リーディング・スキルへの課題発見など、様々な共同研究の成果やそのプロセスにおいて発見された、今後の教育改革に対する新たな気づきをさらに掘り下げて、新たな研究材料とする。

- （取組例）
- リーディング・スキルの視点からの授業改善…国立情報学研究所等のリーディング・スキル・テストによる子供の読解力への課題発見を契機に、当該テストの視点を取り入れた授業改善の手法を各学校での実践に基づき研究。
  - 特別支援の視点からの授業改善…企業と連携し、ユニバーサルデザインに基づく学級経営とその成果検証を行うことによって今後の全体の授業改善に役立てる。

# 「教育政策シンクタンク」構想

## 設置趣旨

戸田市の教育行政におけるEBPM（Evidence-based Policy Making）の推進の核とするため、これを専門的に担う人材から成る「教育政策シンクタンク」を立ち上げ、より効果的・効率的な教育政策の企画立案を行うとともに、市民への説明責任を果たす。

## 設置意義

教育委員会  
内部における  
基本的な  
調査分析機能

### 主導性

教育政策全体のEBPMに関する構想の企画と実行を主導することができる。また、個々の研究者等との共同研究においても、本市にとってより効果的な形での連携を行うことができる。

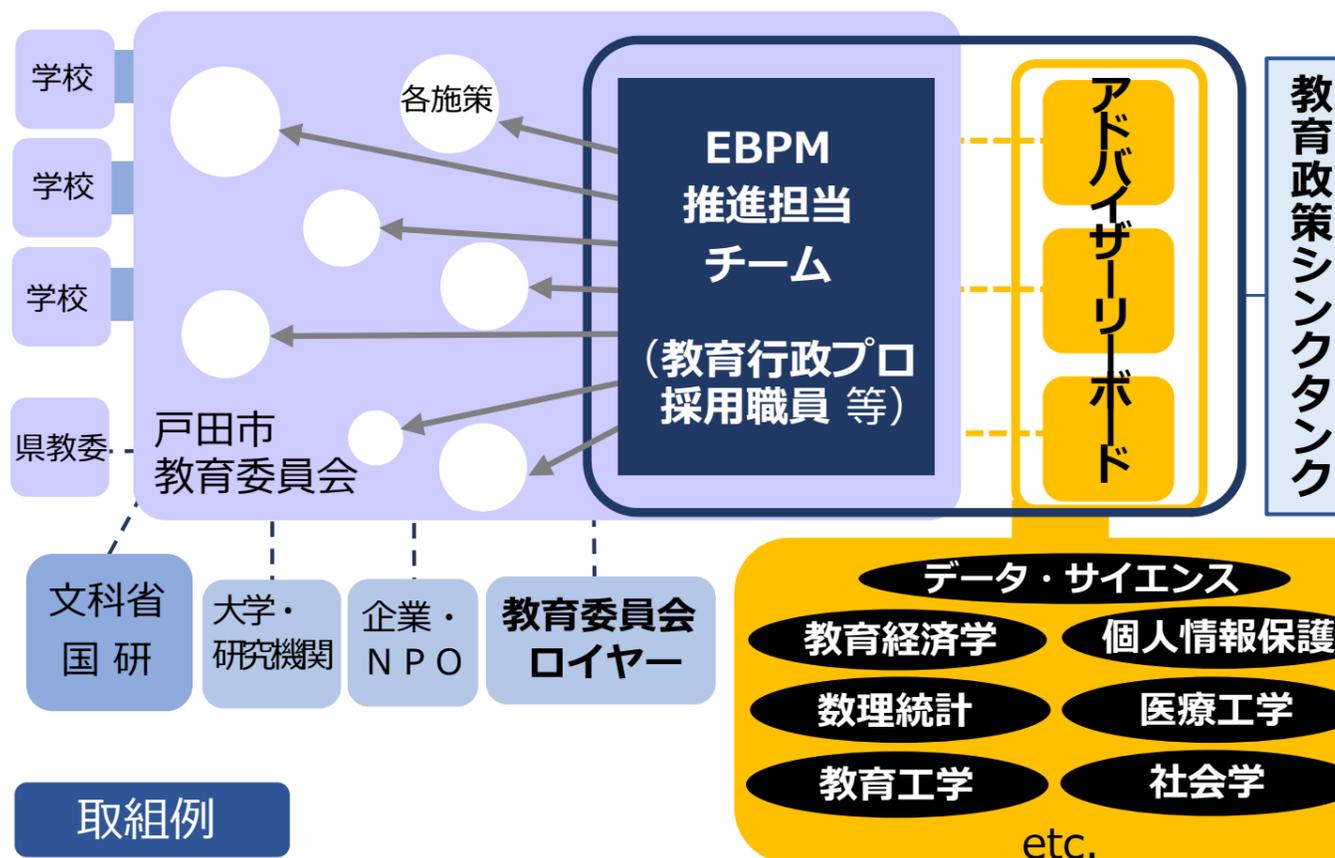
### 機動性

外部研究者等との共同研究は一大プロジェクトとして行われることが多いが、自前の調査研究では、小さな規模のものも含め、より日常的に、機動的に行うことができる。

### 実効性

本市における教育課題や個々の教育施策に直接結びつけた形での調査分析を行えるため、分析結果によるエビデンスをより実効的に教育施策に活かすことができる。

## 体制



## 体制の3つのポイント

### ○教育委員会内部のEBPM推進担当チーム

EBPMは担当チームが専属的に行うものではなく、教育委員会が所管するすべての学校教育施策の基本的な考え方として浸透し、教育委員会及び学校の職員全員によって実行されるものであり、EBPM担当チームがその推進役及びとりまとめ役としての立場を担う。EBPM担当チームは、事務職（教育卒）を含める教育改革の政策担当の職員が兼務する。

### ○外部アドバイザーとの連携

産官学からEBPMの政策立案に優れた外部有識者を委嘱し、日常的なアドバイザーとして教育政策シンクタンクのメンバーとなっただく。また、必要に応じて外部有識者によるアドバイザーボードを設置する。

### ○産官学の外部機関等との連携

専門性の高い研究や規模の大きな研究等については、外部の知の資源を積極的に活用し、産官学の外部機関との連携を行う。その際には、調査分析のデザインの調整について主体性を持って調整する。

## 取組例

- ・教育活動の多様な成果を多角的に分析するとともに、数値化できるデータ・調査結果のみならず、数値化が難しいものも含め、現場感覚をもった的確に状況を把握する。
- ・**データの標準化**や一元化（ワンソース・ワンマスタ）と二次利用促進（オープンデータ化）
- ・データの集約・提供体制等に関する改革の推進

